怪盗ルパーノはハートがお好き

朝比奈由佳

人物

前崎愛里（27）　怪盗ルパーノ

渋谷翼（39）　刑事

仙石原淳（42）　質屋の店長・情報屋

犬山友梨佳（27）　愛里の仲間

市ヶ谷洋介（32）　刑事・渋谷の同僚

○海岸線・走る車・車内（早朝）

赤のオープンカーで音楽を流し、ノリノリで運転している前崎愛里（27）と助手席の犬山友梨佳（27）。

メイクは派手だが、服装は黒で地味。

友梨佳「今日も上手くいったじゃん、愛里」

愛里「（ニッと笑い）当たり前よ！」

友梨佳「巧妙な手口。流石、怪盗ルパーノ様！」

愛里「（笑顔で）私に盗めないものはない！」

○同・（早朝）

朝日が昇る海を見ながら、颯爽と走る愛里の車。

○宝石店・入口（朝）

ハートの形に割られたドアの前に、一台のパトカーが止まる。

中から渋谷翼（39）と市ヶ谷洋介（32）が降りてきて。

渋谷「ここが現場か？」

市ヶ谷「はい」
渋谷「また例の奴らの仕業か？」
市ヶ谷「ええ。怪盗ルパーノの仕業かと……」
渋谷「とりあえず、中へ入ろう」
と、店内に入る渋谷と市ヶ谷。

○同・店内（朝）
メインのショーケースのガラスが割られ、その上には一枚の名刺。
名刺を手に取る渋谷、じっと見つめて。
渋谷「あなたのハートをいただきます。怪盗ルパーノ……。で、物は？」
市ヶ谷「時価一千万と言われるハート型のルビーのネックレスです」
渋谷「今度はルビーか……。クソッ!!」
ショーケースを軽く叩き、手を抑える渋谷。
市ヶ谷、一瞬吹き出し笑いをこらえる。

○海岸線・パーキングエリア（朝）

車を止め、降りてくる愛里と友梨佳。
ポケットからハート型のルビーを取り出す愛里、朝日にかざして。
友梨佳「うぉ～、綺麗」
愛里「（しみじみ）宝石の輝きは美しい。特に、ハート型の宝石はね」
友梨佳「ハート型の宝石は特別に高貴で、珍しいからだよね？」
愛里「そう。さすが、私の相棒！」
友梨佳「ねぇ、お祝いしない？」
愛里「うん、いいね！」
と愛里と友梨佳、ハイタッチで喜ぶ。

○愛里の部屋・ダイニング（朝）
広いワンルームにシンプルな家具。
鼻歌を歌い上着を脱ぐ愛里。
友梨佳、愛里の上着からルビーを取り。
友梨佳「ねぇ？　これ、1日借りてもいい？」
愛里「何で？」
友梨佳「これ、街コンにつけて行ったら、絶

対にモテるって！」
愛里「ダメ！　このルビーは売るの」
友梨佳「えっ、また？　もう売るの？」
愛里「当たり前でしょ？　怪盗ルパーノは身寄りのない子供たちの見方なの」
友梨佳「ねぇ、愛里。今回は分け前もらえるんだよね？」
愛里「そんなもんないに決まってるじゃん」
友梨佳「じゃあ、今回もなし？」
愛里「当たり前でしょ！」
友梨佳「やってらんない。私、もう辞める」
愛里「ちょっと待って。何で辞めるの？」
友梨佳「私、自分の為にお金が使いたい」
愛里「私の気持ち、知ってて協力してくれてたんだよね？」
友梨佳「そりゃ、愛里が児童養護施設育ちだから、身寄りのない子どもたちにお金を恵んであげたい優しい気持ちはわかるよ」
愛里「だったら協力してよ！」
友梨佳「もう無理。だってさ、折角宝石盗ん

でも、自分の為に使えなら張り合い出ないんだよね」

愛里「友梨佳……」

友梨佳「ねぇ愛里、私たちもう解散しよ」

愛里を冷めた目で見る友梨佳、去る。

ソファーに座る愛里、ムッとした顔。

愛里「（呟き）なによ、意気地なし。！　いいもん！　次は私一人で成功させるから！」

両腕を組み、膨れっ面の愛里。

〇質屋・店内

薄暗い店内。ショーケースには、ブランド物のバッグや宝石が並ぶ。お客の持ち込んだ宝石を鑑定している仙石原淳（42）。

ガラリとドアを開け入ってくる愛里。

愛里「こんにちは～」

仙石原「いらっしゃい」

仙石原、出て行く客に。

仙石原「ありがとうございました！」

と、お客を送り出しカーテンを閉める。

仙石原「で、今日の要件は？」

愛里「昨日盗んだルビーと引き換えに、新しい情報が欲しいんだけど？」

バックの中からハート型のルビーを取り出し、仙石原に見せる愛里。ルビーを受け取り、鑑定を始める仙石原。

仙石原「おぉ。これは上物じゃないか！」

愛里「でしょ？　で、情報は？　何かある？」

仙石原「横浜に良いダイヤモンドを置いた宝石店がある」

愛里「ほー、今度はダイヤモンドか。形は？」

仙石原「勿論ハート型。しかし、今回は高価な分、人手がいるのが難点だ」

愛里「人手か……。いや、私一人でやる!!」

仙石原「無理だ。人手がいるっていっただろ？」

愛里「大丈夫!!　この、怪盗ルパーノ様の私に一人でできない仕事はない」

と、腰に手を当てる愛里。

首を横に振る仙石原。

○横浜商店街（深夜）

沢山のブランドショップが立ち並ぶ。

どの店も頑丈なシャッター。

○同・宝石店・入口（深夜）

頑丈なシャッターをバールで器用に開ける愛里。ライターを取り出し、ガラス戸を焼いている。

○同・裏口（深夜）

煙草を吸い、身を潜める渋谷。

市ヶ谷、飲み物を二つ手に持って。

渋谷「（小声で）今日こそはこの手で捕まえてやるからな、怪盗ルパーノ」

市ヶ谷「（小声で）本当に大丈夫っすかね」

渋谷「（小声で）バカ！　大丈夫に決まってるだろ！」

市ヶ谷の頭を叩く渋谷。

市ヶ谷「（渋い顔）痛ってぇ」

○同・店内（深夜）
店の奥にディスプレイされた、ハート型のダイヤモンド。ライターを取り出し、ガラスケースを焼く愛里。
愛里「（小声で）あと少し。もうすぐ、このダイヤモンドが私の物に……」
すると、パリンと音を立ててガラスが割れる。大きな音で鳴る警報機。
愛里「（舌打ち）しくじった!!」

○同・裏口（深夜）
警報機の音に気づき、慌てて店内に入る渋谷と市ヶ谷。

○同・店内（深夜）
ダイヤモンドを手に取り逃げ去る愛里。
渋谷、中にいる愛里を見つけて。
渋谷「待て、怪盗ルパーノ!!」
愛里「（小声で）ヤバい！」
渋谷「今日こそは捕まえてやる!!」

愛里に一歩ずつ歩み寄る渋谷。
愛里の肩を触り。
渋谷「やっと捕まえた！」
と、渋谷を見る愛里。
その目には、ウルウルと涙が。
渋谷「おまえ……！」
愛里「（小声で）ごめんなさい……」
渋谷「泣いてるのか？」
愛里「お願いだから、許して……」
と潤んだ瞳の愛里、渋谷をじっと見つめて舌を出し。
愛里「なんちゃって！　じゃぁね～」
渋谷「わっ、こら、待て!!」
慌てて逃げる愛里を追いかける渋谷。

○横浜商店街・ストリート（深夜）
ダイヤモンドを握りしめ、走る愛里。
追いかける渋谷に愛里、立ち止まり。
愛里「楽しい時間をありがと、刑事さん」
と愛里、投げキッス。

胸元を抑える渋谷の後ろから、市ヶ谷が追ってきて。

市ヶ谷「怪盗ルパーノは？」

渋谷「クソッ!!　また取り逃がした」

市ヶ谷「またですか？」

渋谷「（舌打ち）まんまと盗まれた……」

市ヶ谷「ハート型のダイヤモンドでしょ？」

渋谷「違う！　俺のハート」

市ヶ谷「はぁ？」

渋谷「いいから早く、追え!!」

市ヶ谷「あ、はい！」

渋谷「こりゃ、長い対決になりそうだぜ！」

渋谷、先に愛里を追いかける市ヶ谷の後に続いて追いかける。

○走る車・社内（深夜）

運転する愛里、速度を上げて。

愛里「（ニッコリ笑って）サイコー！」

笑う愛里の胸元には、ハート型のダイヤモンドのネックレスがキラリ。